



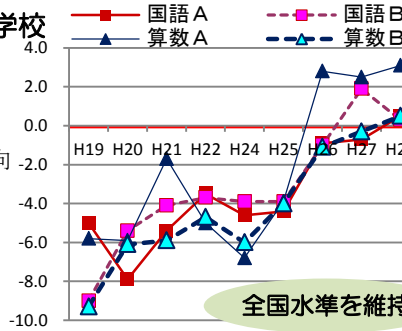
学力向上推進プロジェクト ～授業改善6つの方策～

本県児童生徒の学力

～全国学力・学習状況調査結果から～

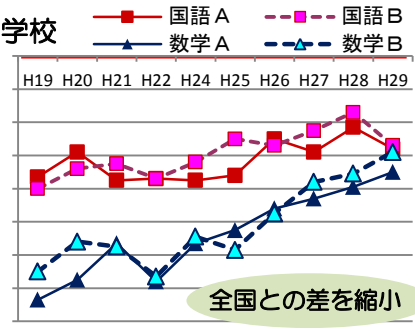
- 小学校は学力全国水準を維持
- 中学校は全国平均正答率との差が縮小傾向
- 小中学校とも活用に関する問題（B問題）
- 学校質問紙の回答が50%以下の「授業における基本事項」に関する設問

小学校



全国水準を維持

中学校



全国との差を縮小

総括目標

本県児童生徒の学力を全国水準に高め、維持する。

【成果指標】

全国学力・学習状況調査結果から

- 小学校全科目において全国平均正答率以上の維持及び中学校全科目において全国水準まで向上
- 平均正答率30%未満の児童生徒の割合及び無解答率の減少
- 児童生徒質問紙における学習意欲等に関連する項目の数値の向上
- 学校質問紙の「授業における基本事項」に関連する事項の数値の向上

取組の重点

授業改善

授業改善6つの方策



方策1 めざす授業像の共有 ※詳細は裏面

○めざす授業像

他者と関わりながら、
課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

○めざす子供の姿

方策2 教材研究の充実

- 「教材研究ツール」の活用
- 各種資料の分析・活用
- 組織的な取組の充実

方策3 学力向上マネジメントの推進〈共有・浸透〉

- 学力向上マネジメントを機能させる
- 全校体制による取組を推進する

方策4 学習を支える力の育成

- 学習環境の充実
- 読書活動の充実
- 対話の充実
- 家庭学習の習慣化
- 生活リズムの確立
- 規範意識・マナーの向上
- 体験活動の充実
- 部活動の充実と適正化

方策5 集団づくり・自主性を高める取組の充実

- 支持的風土をつくる学級経営
- 生徒指導の三つのポイントを生かした授業の日常化
- 学びに向かう集団づくりを進める
学級活動及び児童会・生徒会活動

方策6 教育行政による効果的な支援体制の構築

- 学校支援訪問等の充実
- 学力向上推進本部会議による提言

これから必要とされる資質・能力を育成するために、めざす授業像を共有し、めざす子供の姿が実現できるよう学びを支援する授業を展開する。

めざす授業像

他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

めざす子供の姿

- 主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ
- 他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める
- 学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ

〈 子供の学習活動例 〉

- ・課題から「問い」を発見する。
- ・めざすゴールをイメージする。
- ・課題の解決に向けた見通しをもつ。
- ・既習の知識・技能を活用して課題に取り組む。
- ・比較、分類、類推するなど多角的・多面的に考える。
- ・他者との交流を通して、自分の考えを吟味する。
- ・学びの過程を振り返り、新たな「問い」を見いだす。
- ・自己評価を通して、自分の変容を確認する。

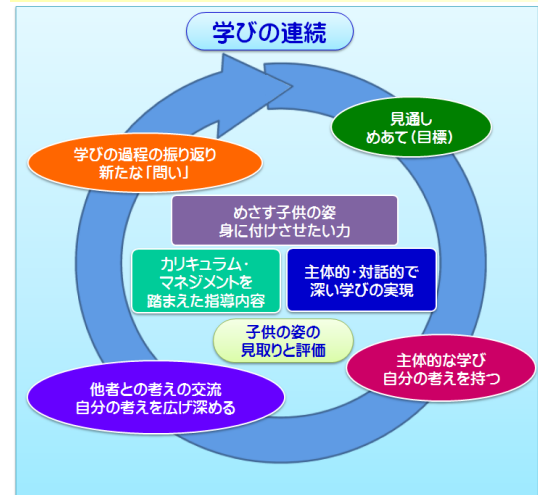


〈 教師の支援例 〉

- ・子供の「問い」を引き出す課題の提示
- ・子供の「問い」を生かした「めあて(目標)」の設定
- ・見通しをもち、めざすゴール(評価規準)をイメージさせる工夫
- ・自分で課題に向き合い考える時間の設定
- ・既習の知識・技能を活用する場面の設定
- ・比較、分類、類推など深い学びにつなげる発問の工夫
- ・他者との交流を通して、自分の考えを吟味するなど、**深い学びにつなげる場面の設定**
- ・多様な意見や考えを整理・分類し、まとめさせる工夫
- ・「めあて」と正対した「まとめ・振り返り」の確実な実施
- ・学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもたせる工夫
- ・定着状況の的確な把握と必要に応じた手立ての工夫
- ・子供の姿の見取り(評価)を生かした授業展開(指導)
- ・学習規律、支持的風土の確立



めざす授業像のイメージ図



本プロジェクトは、平成29年度からスタートする学力向上推進の施策です。“プロジェクト”という名称には、県全体で方向を一にした取組に、教職員一人一人が参画し、目標を達成していきたいとの思いが込められています。

そこで、本プロジェクトの趣旨を共通確認し、円滑な実施を図るために作成した「Q&A」を示しています。

Q1

新たに策定された「学力向上推進プロジェクト」の特徴及び「夢・にぬふぁ星プランⅢ」との違いを教えてください。

本プロジェクトの特徴は、取組の重点を「授業改善」に置き、それを支える「6つの方策」を示しているところです。前プランでは、3つあった柱（キャリア教育、わかる授業の構築、目標管理）を、本プロジェクトでは「授業改善」に焦点化しています。☞ 参照（本冊子P6）

Q2

取組の重点を「授業改善」とした理由を教えてください。

諸調査より、児童生徒に確かな学力を育むには「授業改善」が最も効果的であることがわかっています。本県の児童生徒が今後直面するであろう、予測困難な社会変化に対応できる資質・能力を育てていくためには、今まで以上に、授業改善を推進していかなければならないと考えています。

☞ 参照（本冊子P6）

Q3

今まで以上に「授業改善」を推進させていくために、学校ではどのような取組を行えばよいのですか。

本プロジェクトで示した「授業改善6つの方策」を各学校の実状や児童生徒の実態に合わせ、各機関との連携のもと、組織的・計画的に取り組んでほしいと考えています。

☞ 参照（本冊子P7～P11）

Q4

方策1で示された「めざす授業像」、「めざす子供の姿」について、学校ではどのような対応をしていけばよいですか。

これから必要とされる資質・能力を育成する授業を共有するために、「めざす授業像」、「めざす子供の姿」を示しました。

学校においては、「めざす授業像」等を共有し、児童生徒の発達段階や教科等の特質に応じた自校の授業像・子供の姿を描き、授業改善を進めてほしいと考えております。

☞ 参照（本冊子P8）

Q5

方策2で「教材研究の充実」を掲げていますが、先生方は今までも意識して取り組んできたのではないのでしょうか。

本プロジェクトでは、学校現場で培ってきた教材研究に係る豊富な実践知の共有をねらいとしています。そこで、方策2として「研究ツールの活用」「各種資料の分析・活用」「組織的な取組」の3つ視点を示しました。教材研究は、組織的に取り組むことによって、より充実が図られ、学校全体の授業改善の推進につながると考えています。

☞ 参照（本冊子P9）

Q6

取組の重点を「授業改善」にしたことは、宿題や補習などは重視しないということですか。

授業・補習・宿題の学習サイクルは、学習内容の定着には欠かせません。今後も、授業改善を推進していくために、「学習を支える力」としての宿題や補習等の充実を図って下さい。
☞ 参照（本冊子P10）

Q7

「学力向上マネジメント」について教えてください。

「学力向上マネジメント」とは、学力向上の取組において、設定した目標の達成に向け、「計画」「実践」「点検・評価」「改善」のPDCAサイクルを機能させ、教職員の組織体制や学校運営、教育課程、授業づくりなどを発展させていくことです。

学力向上の取組を推進する上で、「学力向上マネジメント」を意識した職員全員による共通実践は重要です。
☞ 参照（本冊子P10）

Q8

「集団づくり・自主性を高める取組の充実」は、学力向上に具体的にどのような関わりがあるのですか。

本県がめざす授業像「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」を実現するためには、児童・生徒が安心して自分の考えや思いを表現できる支持的風土は不可欠です。その支持的風土を、学級のみならず学校全体で育てていくことが大切だと考えます。

そのために、方策5として「学級経営」「生徒指導の三つのポイントを生かした授業」「学級活動及び児童会・生徒会活動」を示し、全校体制での取り組みをお願いしています。

☞ 参照（本冊子P11）

Q9

「キャリア教育」や「目標管理」の視点はどうなりますか。

「キャリア教育」や「目標管理」については、教育活動や学校経営を充実させる上で重要であるため、今後も「学校教育における指導の努力点」の「努力事項」として、また「教職員評価システム」との関係性を重視しながら充実を図ります。

Q10

「『問い』が生まれるサポートガイド」と本プロジェクトの関わりを教えてください。

「『問い』が生まれるサポートガイド」は、本プロジェクトを詳細に解説した内容になっています。学校においては、今後も継続して活用をお願いします。

